

初夏を彩る文化の祭典 ココティすぎとみんなの文化祭

6月15日（日）、小雨の降る中でのスタートとなった「みんなの文化祭」。楽器の演奏や歌、ダンスの発表が進むにつれ、会場の盛り上がりこたえるかのように、空はすっかり晴れ渡りました。各種展示や体験コーナーにも絶えず人が訪れ、大盛況でした。



コミュニティセンターからの お知らせ

★小学生のための なつやすみこどもワークショップ

夏休みの親子の思い出づくりとして、ワークショップを是非お楽しみください。

開催日：7月26日（土）／ 13:00～17:00
会場：ココティすぎと 1階
※当日10時より時間帯別整理券を配布します。

★ココティすぎとおしごと体験

お店屋さんからダンサーまで！夏休みにココティで気になるおしごとを体験してみませんか？詳しくはこちらをフォローしてお待ちください。
⇒Instagram：@la.pain.014ne（主催：楽ぱん）

開催日：8月7日（木）／ 11:00～16:00
会場：ココティすぎと 1階

★杉戸町ゴミ拾い王決定戦 2025夏！

この夏、最強の“ゴミ拾い王”が誕生する！誰よりも早く！誰よりも楽しんで！街をキレイに、心もアツク。栄光を手にするのは、果たして誰だ！！詳しくはこちらをフォローしてお待ちください。
⇒Instagram：@change_the_sugito（主催：CCC杉戸）

開催日：8月24日（日）
会場：ココティすぎと 1階

（アイコン／サイト名：かんたん似顔絵くん URL:https://charat.me/portrait/）



コミセンからこんにちは ～スタッフコメント～



今月の担当者
佐野

いつもコミュニティセンターをご利用いただきありがとうございます。スタッフの佐野です。最近暑い日が続いていますので、センターで涼みながら読書などを楽しんでいただけたらと思います♪

杉戸町コミュニティセンター

〒345-0036
埼玉県北葛飾郡杉戸町杉戸3丁目9番10号
TEL：0480-53-7400
Eメール：sugito.community@machikatsu.co.jp
開館時間：午前9時～午後9時30分
休館日：年末年始（12月29日～翌1月3日）

ホームページや各種 SNS もぜひご覧ください！



Instagram



Facebook



ホームページ



ココスク講座
予約サイト

Vol.14 2025.7 すぎとNEWS

杉戸町コミュニティセンター情報誌

特集

道路や広場でつながる杉戸町の夏 「マチナカリビング」が生む公共空間の可能性



イベントレポート ココティすぎとみんなの文化祭

すぎとNews とは？

すぎとニュースとは、杉戸町コミュニティセンターの情報誌で毎月1回発行します。内容は、センターで活動している団体や、まちのキーパーソンの紹介、センターや町が主催のイベント情報などを予定しております。PRしたいことなどございましたらぜひ情報をお寄せください！

道路や広場でつながる杉戸町の夏 「マチナカリビング」が生む公共空間の可能性

杉戸町で進められている社会実験「マチナカリビング」。

道路や公共施設、河川などの空間を活用し、民間とともにまちづくりの新たな形を模索する試みです。今回は、「マチナカリビング」を支える役場の思いや、高校生が実践する企画をご紹介します。



マチナカリビングとは？

道路や広場、河川などの公共空間を活用する社会実験の一環です。2019年に始まり、スケートボードのランページの設置や、机と椅子を並べた滞在の場づくりからスタート。サーフショップ「レイデックス」や「ひとつ屋根の下」の協力、アグリパークの移動販売なども実施し、去年は流灯前夜祭を開催しました。多様な人たちがつながり、取組みが広がっています。

1 「やるからには一緒に」を大事に進むマチナカリビング ——市街地整備推進室 尾場瀬さんインタビュー——

町に関わる人たちの「やってみたい」をかたちにしていく、マチナカリビング。その裏側で、さまざまな企画の実現を支えてきたのが、市街地整備推進室です。杉戸高校との連携が始まった経緯や、マチナカリビングにおいて大切にしていることについて尾場瀬さんに聞きました。

やりたいことを持っている人の背中を押すことが、マチナカリビングの目的のひとつです。町で何かを動かすのは実際に暮らす人や通う人たち。その人たちが杉戸を自由に使えるように、後押しするのが役割だと考えています。

杉戸高校との連携も、そうした動きのひとつです。ストリートデザインスクール（※1）の一環で『杉戸まちなかキャンパス』（※2）の周知のため学校を訪ねたとき、総合的な探究の時間の授業でのアイデアが形になっていないと聞き、「それなら一緒にやりましょう」と話が進みました。町への愛着や地域の元気にもつながる若い世代の動きもしっかりと支えていきたいです。

僕自身はマチナカリビングを通じて、杉戸町を“稼げる町”にしていきたいです。お金だけではなく、人とのつながりや関係が生まれるような場所を増やしていきたいですね。また将来的には、マチナカリビングという名前にこだわらず、実施主体を民間に移していけたらと思います。皆さんが持ち込む企画に町が伴走する形が理想なので、今はそうした企画者を増やす取り組みを続けています。

行政はつい許可を出す立場に留まりがちですが、「やるからには一緒にやる」を大事にしています。ただ、その姿勢が“仕事”として見えると、地域の人たちと距離ができてしまう。そうならないよう徹底しているところは杉戸町ならではの良さだと思います。

※1：東口通り線周辺の公共空間で行う、地域課題に挑む実践型スクール。

※2：トリートデザインスクールの実践として開催される、町なかを活用した地域交流・チャレンジの場。



開始当初は自らひたすら声をかけ、参加者を募った尾場瀬さん。その成果もあり、今は、たくさんの協力者、参加者が募っています。

2 交流と体験で広げる杉戸町の輪 ——マチナカリビングと杉戸高校生

今年度のマチナカリビングでは、杉戸高校との連携がスタートしました。授業「総合的な探究の時間」の活動の一環で町の課題に取り組んできた3年生が、地域と関わる企画を立案し、8月1日（金）の流灯前夜祭での発表を予定しています。企画に込めた思いや背景について、生徒たちに話を聞きました。

すぎにゃんカップのかき氷で、杉戸の思い出を届けたい



杉戸高校のキャラクター「すぎにゃん」をあしらったカップでかき氷を販売する企画が進んでいます。担当するのは3年1組の1班の生徒たち。「杉戸町のことをもっと知ってもらいたい」という思いが出発点です。

カップは手元に残りやすく、「持ち帰ったあとも杉戸を思い出すきっかけになるかもしれない」との発想から採用されました。

当日は、来場者が自分で機械を使ってかき氷をつくる体験型を予定。「買うだけではなく、自分で作れたら特別な思い出になると思う」と話す生徒もいました。写真映えするカップやかき氷体験の様子がSNSを通じて広まり、杉戸町を知ってもらえるきっかけになれば。そんな願いを込めて準備が進んでいます。



かき氷を高く作る競争にすれば、楽しくて何度も作りたくなるかなって考えました

カップって意外と持ち歩くから、見てもらえる時間も長いと思ったんです

1班の皆さん。SNSでの拡散や放課後に楽しむためのアイデアなど、高校生ならではの視点が印象的でした。



世代をつなぐ流しそうめん 町と人をつなぐ企画のかたち

今回で終わらせないで、別の機会に実現できればいいなと思います



遊びコーナーも作ればいろいろな人に楽しんでもらえるかなって考えていました

6班は、多くの人に喜びを共有してもらえる企画を進めていました。また何かの機会にことを期待しています。

6班では、世代を超えた交流を生み出す企画として「流しそうめん」を提案していました。残念ながら今回は実施できませんが、小さなお子さんからご年配の方まで、来場者と一緒に竹レールの組み立てから始めることで、「一緒に行うことの楽しさ」や「達成感」を町の人たちと共有できたらと考えていました。

空き家の活用も検討していましたが、実現が難しく断念。別の方法を模索していたところ、尾場瀬さん（杉戸町役場・市街地整備室）から「流しそうめん」の提案があり、「杉戸町で流しそうめんやったよね」と思い出してもらえるような体験を目指し、企画は進められていました。

実現には至りませんでしたが、町の人とともに過ごす時間を思い描きながら、楽しさを分かち合おうとする思いを感じました。

マチナカリビング 流灯前夜祭

開催日：2025年8月1日（金）

時間：17:00～20:00

場所：東武動物公園駅東口通り線周辺（道路・広場・川）

